



# 「デートDV防止講座」 講座実施 小学校・中学校・ 高校・大学・団体 募集中!

Saya-Saya公式HP



デートDV防止プログラム「**チェンジ**」は、  
講座実施を希望する学校・大学・団体を募集します。

2025年度（2025年1月～2025年12月）の受講者は、

Saya-Sayaチェンジは56講座で14,365人、

全国の協力団体は106講座23,922名、合計約38,000名が受講\*。

\*Saya-Saya、アウェア、山口女性サポートネットワーク、エンパワメントアフロッキー、エンパワメントかながわ、等による実施に基づく。

講座形態

講座時間

講座料金

出張講座  
オンライン講座

45分～2時間

※2時間の場合は  
ワークショップを  
含みます。

無料

※1回で参加者100名  
の講座を対象

※講座は、学年単位、全学年等、承っております。  
少人数の場合はご相談下さい。

ご依頼・お問合せは、事務局(saya3@sa6.gyao.ne.jp)まで。  
件名に「チェンジ講座希望」とご記載ください



# NPO法人女性ネットSaya-Sayaについて

2000年設立のNPO法人。DV被害や児童虐待など、暴力・差別のない社会を目指し活動しています。地域の中で暴力被害女性たちと子どもを支援することが、暴力と差別のない「女性と男性・人と自然」が共生する社会につながると考え、支援のネットワークを広げていくことに貢献します。

## デートDV防止プログラム「チェンジ」とは？

NPO法人女性ネットSaya-Sayaによる若年層に向けた、「デートDV」の予防教育プログラムです。

思春期の若者たちが、自分と相手を大切にし、尊重しあえる関係の作り方を学ぶことを目的にしています。

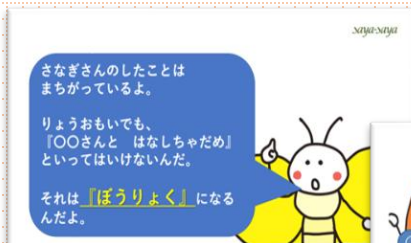
小学校や中学校、高校、大学など、学校に訪問し、年間約1万5千名に講座を開催しています。

## 受講者の感想

中学生のときにデートDVに関するパンフレットをもらったことがあったので、そういうものがあるというのは知っていた。でも、その時は、そんなに苦しいならなんで別れないの？と思っていた。今回の講座を通してデートDVにあっても「別れよう」と言えないのは普通のこと、やはりその土台には「思い込み」があるということが分かった。これから先、自分や友達がそのような状況になってもうまく対処できるように、今回学んだことを忘れないようにしようと思った。

自分の彼氏がどうなのか、自分が彼氏にしてないか振り返るいい機会になりました。これから衝突することもあると思うし、所詮他人だから考え方価値観の違いで喧嘩は良くすると思うけど、デートDVについてよく考えて、自分が大切な相手を傷つけないように気をつけようと思いました。

## 「チェンジ」講座内容

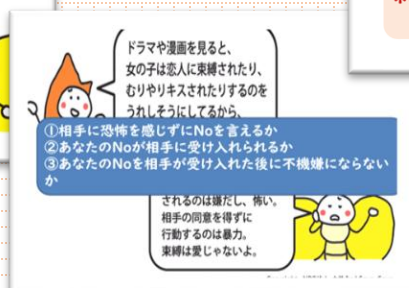


さなぎさんのしたことはまちがっているよ。

りょうおもいでも、「〇〇さんと はなしちゃだめ」といってはいけないんだ。

それは「ぼうりょく」になるんだよ。

小学低学年版

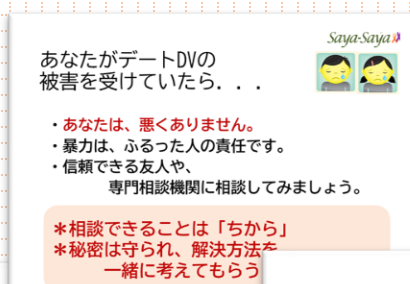


ドラマや漫画を見ると、女の子は恋人に束縛されたり、むりやりキスされたりするのをうれしそうにしてるから、

①相手に恐怖を感じずにNoを言えるか  
②あなたのNoが相手に受け入れられるか  
③あなたのNoを相手が受け入れた後に不機嫌にならないか

されるのは嫌だし、怖い。相手の同意を得ずに行動するのは暴力。束縛は愛じゃないよ。

中学生版

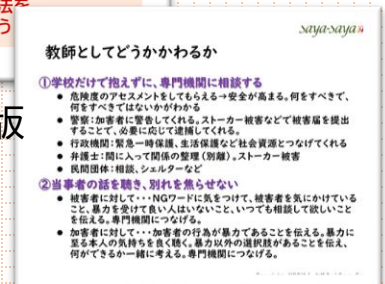


あなたがデートDVの被害を受けていたら...

- あなたは、悪くありません。
- 暴力は、ふるった人の責任です。
- 信頼できる友人や、専門相談機関に相談してみましょう。

\*相談できることは「ちから」  
\*秘密は守られ、解決方法と一緒に考えてもらう

高校生版



教師としてどうかかわるか

①学校だけで抱えずに、専門機関に相談する

- 危険度のアセスメントをしてもらえる→安全が高まる。何をすべきで、何をすべきではないかがわかる。
- 警察・加害者に警告してくれる。ストーカー被害などで被害届を出すことで、必要に応じて逮捕してくれる。
- 行政機関：緊急一時保護、生活保護など社会資源とつなげてくれる。
- 弁護士：隣に入って関係の整理（別離）。ストーカー被害
- 民間団体・相談、シェルターなど

②当事者の話を聴き、別れを促さない

- 被害者に対して・・・NGワードに気をつけて、被害者を気にかけていること。暴力を受けて良い人はいないこと、いつでも相談して欲しいことを伝える。専門機関につなげる。
- 加害者に対して・・・加害者の行為が暴力であることを伝える。暴力に至る本人の気持ちを見る。暴力以外の選択肢があることを伝え、何ができれば一緒に考える。専門機関につなげる。

教職員版